KYO-PRINT MAKING WORKSHOP 2013

●ECO/DECOシリーズ〈PART:3〉

主催：KPA京都プリント振興協会
コーディネーター：福井健二氏
とき：2012年11月9日(金)～11日(日)
ところ：京都文化博物館(別館)

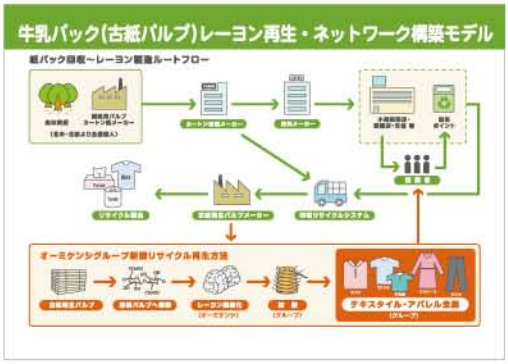
「再生繊維」によるプリント・ファッションの開発。Re-BORN！[再生]

会場に入ると巨大な水の泡のような展示が目に入る。
今回の制作テーマは「WATER CYCLE」 水の循環である。水や川、海などをイメージしたプリント生地をまとったマネキンが並んでいた。
この展示はKPA京都プリント振興協会が主催するKYO-PRINT MAKING WORKSHOP ECO/DECOシリーズで、エコ素材に絞り込んだ展示会での三回目である。
一回目が竹繊維、二回目がリサイクルポリエステル、そして、今回は牛乳パックを原料とした再生レーヨンを主に、一回目の竹繊維、二回目のリサイクルポリエステルを加えた3種類の循環型素材を使って新たなテーマによるプリントで展示されている。

(内丸もと子)

<制作テーマ>WATER CYCLE(水循環)

プリント図案はTDA会員の池端禎三氏ら京プリントを支えてきた図案家さんを中心に、テーマに即した意匠で展開されていた。
また環境に配慮したエコプリントでの加工が推奨されている。
これらのプリント提案としては、
① 水洗がいらないナノ顔料をつかったもの
② 化学染料が排出されない天然染料をつかったもの
③ 水洗時の水の汚染が少ないインクジェットプリントである。
(右図表を参照)
そしてそれらのプリントの上に発泡やグリッター、カレンダー加工等によりさらなる味付けを施し深みを加えている。
また素材の説明として、牛乳パックから再生レーヨン糸になる過程を手に取れる形で展示されていた。
それを見ていた大学生らしい女の子の1人が、「牛乳パックがこんな糸になるんだ。
この頃ちょっとめんどくさくて、普通のゴミと一緒に捨ててたけど、これからちゃんと分別ゴミに出そう！」と別の女の子に話していた。
これは、偶然耳にしたことばだったが、この展示会の大きな意義のひとつなのではと感じた。
プリント生地の歴史ある基地、京都がエコ素材そして、エコプリントの試みをおこない、次世代の物作りに目を向けていることはとても興味深い。
今後エコ素材での開発も進み、さらにバリエーションのある素材が増えれば、また面白い加工もできるのでは？と可能性を感じる。



エコ素材に関しては多くの人や、企業が興味をもちながらも未だ安定した生産状態とは言えない状況が続いている。
まず国内の生産システムを整える必要があるのでは思う。
そして、だれもが容易に手に入るようになれば、循環型社会に向けての繊維産業の大きな基軸の一つになるのではと思う。